永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和４年 12 月発行・第 187 号

認定こども園西九州大学附属　三光保育園

TEL:0952-31-6877

12 月の生活目標

♪お友達と仲良く遊びましょう。

♪「かしてね」「どうぞ」

「いいよ」「仲間にいれて」

などの言葉を使いましょう。

『　三光保育園の分園のこと　』

師走というのに、何と暖かいことでしょう！園児たちは、ブラウス１枚で園庭のあちらこちらで好きな遊びを思い切り楽しんでいます。現在まで暖房要らずで、寒波がきたらそのギャップの影響は想像できませんね（＾＾。。）

さて、三光保育園の分園 PINO（ピノ）についてのご報告です。

建築は順調に進み、予定通り令和５年４月１日より開園できる見込みです。18 日の説明会にはたくさんの方がお話を聞きに来てくださいました。つきましては、概要について以下お知らせいたします。

１）場所：佐賀市多布施２丁目（佐賀市立図書館南側、飯盛内科東隣）

２）定員等：0 歳児５名、1 歳児 12 名、2 歳児 12 名　計 29 名

３）3 歳児からの入園については、姉妹園の三光幼稚園に入園することができます。

４）保育方針や内容は三光保育園と同じです。慣れてきたら本園との交流保育も始めます。

※詳しくは、佐賀市の教育・保育施設のご案内をご覧ください。

（三光保育園園長）

子育て支援の活動では、どんぐりを使った製作をしたり夢咲公園に散策に行ったりして、いっぱい秋と触れ合いました。また、食育講座ではお子様の食について管理栄養士を含めてお話しする機会をいただきました(⌒▽⌒)
環境講座ではエコプラザに行って、環境についての学びを深めています♪

親子でどんぐり製作

2.3 歳の日（夢咲公園）

環境講座（エコプラザ）

「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に１回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？　　日時：12/22（木）・1/19（木）

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
※毎月第 3 火曜日の 14 時～16 時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について

【開園日】月～金（祝祭日・お盆・年末年始を除く）
【時　間】９：００～１２：３０
・園行事の為、ご利用できない場合があります。
・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。
　１２：３０～１３：３０
　昼休みの為閉園
　１３：３０～１６：００
・ご利用の場合は、必ず電話での申し込みをお願いいたします。

12 月・1 月の「子育て支援事業」のお知らせ

・12 月 12 日（月）…赤ちゃんの日
・12 月 13 日（火）…1 歳の日
・12 月 14 日（水）…1 歳の日
・12 月 15 日（木）…2. 3 歳の日
・12 月 19 日（月）・20 日（火）・21 日（水）…フリーディ
・1 月 6 日（金）…赤ちゃんの日（写真アート）
・1 月 10 日（火）…2・3 歳の日（お店屋さんごっこ）
・1 月 11 日（水）…1 歳の日（手形アート）
・1 月 12 日（木）…1 歳の日（手形アート）
・1 月 13 日（金）・16 日（月）・17 日（火）…フリーディ
※時間：10 時～11 時
※開催場所：運動場・子育て支援センター
※事前の電話での申し込みが必要です。12/1(木)9 時半～17 時）
1 月の申し込みは、1/5（木）の 9 時半～17 時です。
先着順です。
※赤ちゃんの日は兄姉児の参加はご遠慮下さい。1 歳と 2・3 歳の日は、参加できます。
★新型コロナウイルス感染症の状況により、計画の変更がある場合があります。出かける前に必ず HP で確認してください。感染症対策にもご協力ください。

子育て便り　**寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から**

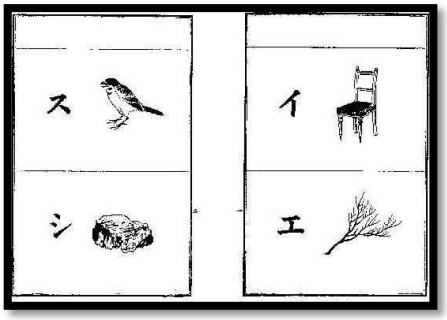
言葉の育ちを支える文化財の進歩

西九州大学子ども学部子ども学科　講師　宇賀神一

今回は、幼児期から児童期に差しかかる子どもたちに注目して、言葉の育ちを支える文化財についてお話しようと思います。保育所・幼稚園・こども園を卒園した子どもたちは、桜舞う４月、晴れて小学校に入学します。入学初日の教室では、期待に胸を膨らませあたりをキョロキョロと見回す子がいたり、幼稚園の友達を見つけ駆けだす子がいたり、もしかすると教室の片隅には、緊張で固まってしまっている子がいるかもしれません。

さて、それぞれの思いを抱えながら着席した子どもの前に、各教科の教科書が配られます。ここで問題。そのなかで一番時間をかけて勉強するのは、どの教科書でしょうか？・・・・答えは「国語」です。国語は文字や文章の規則を学ぶ教科で、ほかの教科を勉強するための基礎にもなるため、どの教科よりも多くの時間をさいて学ぶことになっているのです。

これから紹介するのは国語の教科書の最初のページです。しかし、「今」ではなくて「昔」の教科書です。その足跡を辿ってみると、言葉の育ちをめぐる今と昔の興味深い共通点が浮かび上がってくるためです。



日本の小学校国語科では、20 世紀のはじめから第二次世界大戦終戦直後まで、国家が作成した教科書だけが使われていました。1904 年、まず作られた教科書の最初のページは、上の図のようなものでしたモノクロで、カタカナと絵が並んでいますね。「イ」という文字の横にイスの絵があり、先生はこれで、「みなさん、これはなんの絵ですか？」「イス！！」「そうですね。イスのイはこう書くのです」というようにして文字を教えていったのです。

二つ目の図は、大正デモクラシーを経験し文化レベルが向上した 1933 年の教科書です。カラー印刷で素敵な桜の絵が描かれています。学ぶ内容も、一文字一文字ではなく、ちょっとした文章になっています。三つ目の図は、終戦直後（1947 年）の教科書です。ひらがなから勉強することになり、文章もぐっと長くなっていますね。

ごくごく簡単に国語教科書の歴史を紹介してみました。そこからは、いつの時代もよりよい言葉の育ちが志向され、そのために努力されたことが見えてきます。子どもたちをめぐる文化財はこのようにして今日に至り、今も日々進歩しているのです。